



園だより

.....17.9月号

どうしたら面白くなる？

夏休みが終わりました。「やっと、始まる。やれやれ長かった。」そんな声が、あちらからも、こちらからも聞こえてきます。先日も近所のスーパーで双子ちゃんと思しき元気な男の子が二人（3歳ぐらいでしょうか）、本人たちはとても楽しげにはしゃいでいるのですが、お母さんは気が気でない様子。たびたび声を掛けていましたが、二人の盛り上がりは収まる気配がありません。レジを出たところでとうとう一人は強制的にスーパーのカートに乗せられてしまいました。しかし、これが相棒の兄弟愛に火を点けます。「かわいそう～おろして～」と事態はさらに悪化の気配。お母さんは、終始静かに根気強く丁寧にお話をしていましたが……。結末は見届けられませんでした。いやはや、大変なことです。幸いなことに店内の大人たちはこの様子を、好意的な目で見てくれていましたが、お母さんの心中を思い、繰り広げられる日常のあれこれを想像するだけでも“子育てを楽しんで”なんて呑気な話だと、日頃の自分の言動を反省してしまいます。どうしたらこの日々を楽しんでもらえるでしょうか？ この夏のある研修会で、講師が子どもたちの眩きを紹介されました。

<おとうさん> 4歳女の子

おとうさん あそんでくれて ありがとう たすかるわ

<ことば> 5歳男の子

ああ ぼく 日本に生まれて よかった

外国に生まれてたら ことばが ぜんぜん わからなかったよ

思わずニヤツとしてしまいます。そうそう、子どもってこういうこと言うんだよねって、子どもに関わる人たちにはきっと思い当たる愉快的な眩きです。私にもありました。三女の迷言です。サッカーのW杯が日本と韓国で開催されていた時（2002年）でした。本大会グループリーグを勝ち上がった日本が次の試合に勝てば準々決勝という時でした。（当時の盛り上がりを知らない方がいたら伝わりずらいかも・・・）娘「つぎはずんずんけっしょうだね。」私は笑いをこらえるのに必死でしたが聞いてみました。「なんでずんずんけっしょうなのかなあ？」「だって、ずんずんかてるからだよ。」私はこの言葉を思い出すたび、ニヤニヤが止まらなくなり幸せいっぱい気持ちになります。子育ていろいろあったけど、と苦労が払拭されてしまいます。子どもの迷言は侮れません。老後の楽しみ？のために是非、「我が子の迷言集」を作られてはいかがでしょうか。

そう、子どもって本当は可愛くて面白い！でもそれを味わうことができるのは、期間限定です。（成長と共に可愛さも面白さもどこかへいってしまいます。よね？）でも、親業年中無休の私たちですから、それを味わうチャンスはいくらでもあるのです。しかし、そう言われても、今日のこの日のぐちゃぐちゃに疲れ果てている、笑えないお母さんたちには、どうやって面白がってもらいましょう。そこで**提案1！<この子は私とは異なる人、と割り切ろう>**きちんとしたい大人になってしまった私と、面白いことが最優先の彼だとしたら、同じ土俵で戦うのは無理かもしれませんよ。大事なことは譲れませんが、むきにならなくてもいいと諦めて視点を変えたら、一緒に面白がれることが結構あることに気がきます。**提案2！<もう駄目だとなる前に、聞いてもらおう、褒めてもらおう>**愛隣の親たちは、苦労を分かち合う同志ですから、聞いてもらいましょう。少し楽になります。またある時はその同志が、我が子の魅力を見つけて褒めてくれたりします。子どもを褒めてもらおうと、なんだか私を褒めてもらっているように感じます。我が子の魅力にも気付かされます。ダメダメばかりじゃないと思えたら、わけのわからん異星人?!に今日向き合うエネルギーになるかもしれません。子どもとのいい距離感、いい仲間、それで毎日がほんのすこしでも楽しくなったらいいなと思います。

そして愛隣幼稚園もお家の皆さんを支えます。子育てが苦しいだけの日々にならないでほしい、喜びや楽しみをたくさん見つけてほしいと願います。在園のご家庭のために、さらに地域のご家庭のために『愛隣にできること』『愛隣だからできること』を“こどもファースト”の視点でこれからも考えていきたいと思ひます。